

御飯 大炊寮略○中

殿上臺飯 菜料 高盛魚八種 精進二種已上土器

已上人別居之、番衆勤之、被行臺飯之時、キラメキトテ不知其數、菜料居之、但所臺飯藏人所之時、如辛櫃蓋居之、時者不然也、又盛置之時、人別十五坏許也、又晝御膳御飯下物居之略○中 土器内藏寮所進、夕御

臺飯勤之、

殿上侍臣饌者、以供御謂日貢御膳也殘塵羞之略○中

后宮御方略○中 朝餉

第一御臺御箸 同臺 第二御臺 中御盤居御飯陪膳女房取御飯居

御飯 進物所内膳請料米進之納呂子置八足上○中略

日貢略○中 御飯 大炊寮仕女進之、近年刀自請之、又付御相折帳請料米云々、

〔厨事類記〕調備

御飯 盛御飯器覆銀蓋居中御盤供之、於御前第一御臺被居之蓋被返歟、但近代居一御臺供之、依

〔日中行事〕六齋日には、かならず御精進あるべし、殿上の臺盤もすへませ也、ごち僧供御をまいらす、御飯はそへず、大かた内膳の外の御はんはめさす、ごち僧のまいらせたる供御を殿上の臺盤にもいださる、

〔大槐秘抄〕御あはせ御くだ物は、人のまいらせたる物をきこしめせども、御飯はいかにも内膳の飯をめす事にてさぶらふ也、しからざるはまたくきこしめさぬ事候、

〔今昔物語 十二〕神名睿實持經者語第卅五

今昔京ノ西ニ、神明ト云フ山寺有リ、其ニ睿實ト云フ僧住ケリ略○中 土御門ハ馬出ニ薦一枚ヲ引